

## JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

### 【実践者】

氏名	吉田大祐	学校名	埼玉県立鳩ヶ谷高等学校
担当教科等	社会科	対象学年（人数）	全校生徒（833名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2020年12月3日（1時間） 5限：1・2学年 6限：3学年（体育館）		

### 【実践概要】

1. 実践する教科・領域：総合的な探求の時間	
2. 単元(活動)名：防災教育講演会	
2. 授業テーマ：「10回目の3月11日を越えて」 単元目標：震災やボランティア活動の実態について知るとともに、命の大切さをとらえ直し、今ある自分の生活、これからの自分の生活について考える機会とする。 関連する学習指導要領上の目標：探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能 東日本大震災に関する基礎的な事項を理解する。
	②思考力、判断力、表現力等 女川町の中学生の詩や震災に関わった3名の方の詩の想いを受け取り、自分自身の感想や考えを詩を通して表現する。
	③学びに向かう力、人間性等 命の大切さを理解するとともにボランティア活動に関わる際にどのような心構えで臨むべきかを考える。
5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p><b>【単元設定の理由】</b></p> <p>本校では2013年から2018年の6年間、夏休みに有志の生徒を募り、1泊2日で東日本大震災の被災地にボランティアを訪れる「被災地ボランティア」が行われていた。「被災地ボランティア」自体は2018年で終了したが、その活動の成果を報告し、ボランティアに参加していない生徒も震災について考える「防災教育講演会」は毎年12月に継続して実施してきた。例年、東北から講師の方をお招きしていたが、今年度はコロナウィルスの関係で外部講師の来校が難しくなったため、本年度中止も含めて対応が話合われた結果、本校教員で授業を行うこととなった。</p> <p><b>【単元の意義】</b></p> <p>2021年の3月11日で東日本大震災からちょうど10年が経つ。生徒は当時、5歳～8歳であり、当時の状況をどれだけ理解できていたかは分からない。また、10年の年月の中で、東日本大震災の記憶も薄れてしまっているのが実情である。2020年、コロナウィルスが猛威を振るい、学校や日常生活の「当たり前」を奪われ、見通しの立たない社会に進んでいく生徒たちだからこそ、東日本大震災から「当たり前」の大切さ、人との繋がり大切さを考えることができると考える。</p> <p><b>【児童/生徒観】</b></p> <p>本校は進路多様校であり、四年制大学、短大、専門学校、就職と生徒の進路は多岐にわたり、多様な考えや背景を持った生徒が在籍している。また、コロナウィルスの関係で文化祭をはじめ各種学校行事が中止になるなど、生徒たちは期待していた学校生活が送れず、目に見えないストレスを抱えている。</p> <p><b>【指導観】</b></p> <p>10年の年月は確実に東日本大震災に対する生徒の興味や知識、当事者意識が薄れてさせているので、生徒自身が自分事として捉える授業を行う。</p>

6. 単元計画 (全1時間)				
時	小单元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1 本時	防災教育講演会	震災やボランティア活動の実態について知るとともに、命の大切さをとらえ直し、今ある自分の生活、これからの自分の生活について考える機会とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>震災に関するクイズ</li> <li>震災下のボランティア</li> <li>女川町の中学生の詩を読む、繋ぐ</li> <li>震災に関わった3名の詩を読む、繋ぐ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>女川町の中学生の詩</li> <li>震災に関わった3名の方の詩</li> </ul>

7. 本時の展開 (1時間目)			
本時のねらい：クイズと講演と連句を織り交ぜ、生徒自身が東日本大震災を振り返ることで、命の大切さをとらえ直し、今の生き方、これからの生き方について考える機会とする。			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己紹介</li> <li>「2011年3月11日あなたはどこで何をしましたか？」と発問。近くの人と話合わせる。</li> <li>震災に関する5つのクイズを出題する。出題の度に近くの人と話合わせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>1・2問目：数字で考える <ul style="list-style-type: none"> <li>1問目：犠牲者数</li> <li>2問目：波の高さ</li> </ul> </li> <li>3・4・5問目：ボランティア体験から考える <ul style="list-style-type: none"> <li>3問目：泥かきのボランティア体験から</li> <li>4問目：学習支援ボランティア体験から</li> <li>5問目：子供向けイベント開催の体験から</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒と距離が出ないように穏やかな口調で語りかける。</li> <li>発問後は近くの人と話合わせる時間をとる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PPT「10回目の3月11日を越えて」</li> <li>WORD「10回目の3月11日を越えて」</li> </ul>
展開 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>女川第一中での山中先生の詩の実践の紹介する。</li> <li>女川第一中の生徒の詩を読み、生徒に自分の7・7の言葉をつないで連句を完成させる。</li> <li>近くの人と完成した詩や感想を共有させる。</li> <li>東日本大震災時の国際協力の事例を紹介する。パラグアイの百万丁豆腐プロジェクトなど</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一つ一つの言葉を丁寧に読み上げる。</li> <li>詩の作成の時間は可能な限り多くとるが、時間で調整する。</li> </ul>	
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>震災に関わり今を生きる3名の方の詩を紹介する。</li> <li>宿題として3名の方の詩に生徒自身で言葉をつなぎ、連句を完成させるように連絡する。</li> </ul>		

## 8. 評価規準に基づく本時の評価方法

- ①知識及び技能：ワークシート
- ②思考力、判断力、表現力等：ワークシート
- ③学びに向かう力、人間性等：ワークシート

## 9. 学習方法及び外部との連携

### ・学習方法

- ① 話し合い活動：クイズや発問ごとに生徒同士で話し合いをする時間を設けた。(1～3分)
- ② 詩の創作：女川第一中の詩と3名の方の詩の続きを考える活動を行った。

### ・外部との連携

今回、「震災を経て今を生きる人の言葉」として3名の方に生徒向けの詩の創作を依頼した。

- ① 徳水利枝氏（一般社団法人 雄勝花物語代表理事）

宮城県石巻市雄勝町で人々の憩いの場となる「雄勝ローズファクトリー」を運営。2018年に本校最後の被災地ボランティアの受け入れをしていただいた関係で依頼。

- ② 竹田憲弘氏（Africa Note 代表）

震災時のボランティアが契機となり、青年海外協力隊に参加し、アフリカでツアー業を起業。2019年自主教師海外研修の際にお世話になった関係で依頼。

- ③ ジギャン・クマル・タパ氏

東日本大震災、ネパール大地震双方の震災で支援活動に尽力。震災を受けた日本とネパールの子供たちを結ぶ「たまごプロジェクト」を行う。JICA 埼玉デスク矢田部氏の紹介で依頼。

## 10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

### ・3年選択世界史の授業「命の詩を繋ぐ」

「命の詩を繋ぐ」をテーマに詩の創作を通じた歴史×国際理解教育の実践

- ① JICA 埼玉デスク矢田部氏による「ラテンアメリカ出前授業」
- ② Africa Note 代表竹田氏による「ルワンダオンライン授業」
- ③ イスラエル人家具職人ダニー氏による「パレスチナ問題出前授業」
- ④ JICA パレスチナ事務所坂元氏・ナサール氏協力による「高校生オンライン対談—鳩ヶ谷高校×パレスチナ—」
- ⑤ カンボジア人留学生ソヘーン氏・JICA 埼玉デスク矢田部氏による「カンボジア×SDGs ワークショップ」

### ・1・2学年での総合的な学習の時間「海外ボランティア講演会」

青年海外協力隊をはじめとした海外ボランティア経験者8名の方を招き、1、2学年の各教室で出前授業を実施。

### ・3学年での総合的な探求の時間「SDGs 講演会」「海外起業家講演会」

JICA 埼玉デスク矢田部氏による「SDGs 講演会」、Africa Note 代表竹田氏による「海外起業家講演会」の実施。

### ・ビジネスコンテスト「高校生みんなの夢アワード」「高校生ビジネスアイデアコンテスト」への参加

「地域×国際理解×ビジネス」をテーマに有志の生徒と「高校生みんなの夢アワード」、「高校生ビジネスアイデアコンテスト」に参加。双方で全国大会に進出し、発表。

### ・「彩の国SDGsセミナー」における生徒との共同発表

これまでの国際理解教育の授業実践とビジネスコンテストのアイデアを生徒と共に発表。

【自己評価】

<p>11. 苦勞した点</p>	<p>① 「震災の自分事化」 東日本大震災から10年が経つ中で、いかに生徒たちに震災を自分事として捉えさせ、今、これからの自分の生き方に繋げさせるか。今回は個人の体験と詩を用いることで、生徒自身が震災を追体験できるように工夫した。</p> <p>② 「導入と内容の切り替え」 導入をポップにして生徒との距離を縮めつつ、いかに内容に引き込み生徒自身の心を動かすか。今回は「何故今ここで自身が話をするのか」の説明を起点に、導入と内容（授業）を明確にわけること、意識の差別化をはかった。</p> <p>③ 「授業への当事者意識の醸成」 数百人という規模で、いかに生徒一人一人に授業への当事者意識を持たせるか。今回はクイズや話し合い活動を導入し、生徒参加型の授業とすることで、授業への参加意識を高めた。</p>
<p>12. 改善点</p>	<p>① 「内容の普遍化」 前半の導入内容が個人の体験ベースとなってしまった。しかし、自身の体験も含め、「2011年の震災時にあった出来事」として1つのエピソード化することで、普遍的に使用可能な教材となると考える。</p> <p>② 「他教科との連携」 連句を扱う本実践は特に国語科との協力が可能であったと考える。事前に国語科と連携して当日に向けた連句を含めた詩の授業をすることで授業の効果を高められると考える。</p> <p>③ 「年間計画の中での位置づけ」 総合的な探究の年間計画の中で、2学期のこの時期に「防災教育講演会」を行うことの意義付けはできなかった。前後の時間も含めて計画を立て連続性を授業に持たせることで効果を高めたい。</p>
<p>13. 成果が出た点</p>	<p>① 「生徒の意欲的な参加」 毎年行われる「防災教育講演会」への慣れ、木曜5・6限という時間、数百人規模で体育館で実施という状況から生徒の消極的な参加態度が懸念された。しかし、当日は積極的にクイズや話し合い活動に取り組み、話に耳を傾ける生徒の様子が見られた。</p> <p>② 「震災の追体験」 連句を通し、より深く震災について考えさせることが出来たと考える。「詩を書いた女川の中学生の目線で考えるのが苦しかった」というとある生徒の感想から単に話を聞くよりも震災を自分事化してとらえる効果があったと考える。</p> <p>③ 「国際協力への共感」 生徒の感想に国際協力への感動や共感の声が多く見られた。「震災」という一つの具体的な記憶をもとにすることで、生徒たちによりわかりやすく国際協力の重要性を理解する機会を設けられたと考える。</p>

<p>14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)</p>	<p><b>1 生徒が書いてきた詩</b></p> <p>テーマ1 徳水利枝さんの詩</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・痛みの地 人の繋がり 希望生み 一輪の花 誰かの光</li> <li>・痛みの地 人の繋がり 希望生み 辛さを共に 分かち合うもの</li> <li>・痛みの地 人の繋がり 希望生み 明日へと繋がる 種を残した</li> </ul> <p>テーマ2 竹田憲弘さんの詩</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・凍て解けの 止まった時計 種をまく 一刻一輪 成長する</li> <li>・凍て解けの 止まった時計 種をまく 追い越す秒針 糸をつないだ</li> <li>・凍て解けの 止まった時計 種をまく 動かぬ針は 心を動かす</li> </ul> <p>テーマ3 ジギャン・クマル・タパさん</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害の せいかお陰か 仲良しに 貴方の手を取り 歩む世界</li> <li>・災害の せいかお陰か 仲良しに 繋いだ手と手 もう離さない</li> <li>・災害の せいかお陰か 仲良しに お陰と言える 未来を掴む</li> </ul> <p>感想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・詩には短い言葉しか表せないが、だからこそ、心の言葉が強く表せるんだと思えました。</li> <li>・今の私たちは家に帰ったら「おかえり」と迎えてくれる家族がいるし、美味しいご飯を食べれたり、学校に行って勉強したり、友達と交流するのが当たりまえにできているけど、それができない人がいると考えると、わがままばかり言っている暇なんてないし、普通の生活をできない人に失礼だと思いました。今幸せに生きていけることに感謝して、これからの人生に希望をもって前向きに生きたいです。</li> <li>・ボランティアに実際に行った方々や、被災された方の詩を読んで、人の優しさや強さを感じました。私も誰かの気持ちによりそって誰かのために動ける人になりたいです。</li> <li>・辛く、苦しい思いをされた方々の詩を私が書いてよいものなのかと思いましたが、今を生きる事ができなかった方を想うと、スラスラとペンが進みました。とても深く、良い授業をありがとうございました。</li> <li>・積み上げてきたもの、築き上げてきたものが、一度の出来事で崩されて、誰かのせいにも恨みも出来ず、そんな中、もとの形に戻そうと、様々なところから様々な人達と助け合える、人間は素晴らしい生き物だなと思いました。</li> </ul>
<p>15. 授業者による自由記述</p>	<p>本年度参加した JICA 教師国内研修は自分の授業観を大きく広げる機会となった。今年度はコロナ禍の影響で海外研修から国内研修となったが、国内諸施設の視察だけでなくオンラインを活用して東京にいながら様々な立場で国際理解教育に携わる方たちからお話を伺うことができた。さらにその学びを多種多様な自治体、校種から来た先生方と共有することで、多くの刺激とアイデア、モチベーションを得る事ができ、教員としてまた一つ成長を実感できた研修であった。様々な制約がある中で本研修を実現してくださった皆さまへの感謝の意味を込め、今後も本研修の成果を学校現場に還元していきたい。</p>

・授業用ワークシート

防災教育講演会ワークシート

**十回目の三月十一日を越えて**

年 組 番 氏名

・女川一中の詩

□ 黒い波 のまれて消える 町の色

□ がれきから やっと見つけた 父の写真

□ ただいまと 聞きたい声が 聞こえない

□ 夢だけは 壊せなかった 大震災

□ 笑えてる お帰りのさい もの自分

□ 見上げれば ガレキの上に 鯉のぼり

防災教育講演会ワークシート

**(授業後) 鳩校生に贈る三名の詩**

年 組 番 氏名

三名のみなさんへ贈られた詩に込めた思いを、それぞれの句を詠み、続くあなたの7×2字を付け加えて、5・7・5・7・7の連句を完成させてください。共感でも返意でも何でもかまいません。思いを文字に起こしてみてもいいし、書けそうな一語だけでもかまいません。3句の力にみなさんの返事としてそれぞれ返しましょう。

□ 痛みの地 人の繋がり 希望生み

□ 凍て解けの 止まった時計 種をまけ

□ 災害の せいかお陰が 仲良しに

感想

竹田 雅弘さん 学生時代に起こった東日本大震災に衝撃を受け、社会起業家を目指す。卒業後お菓子メーカーに就職し仙台に勤務。震災復興に障害のボランテアやイベントを企画する。その後青年海外協力隊としてアフリカ・ルワンダで活動。現地でもたずみや出会いをきっかけにルワンダでツアー業を起業。日々ルワンダを訪れる人々に歴史や魅力を伝えている。

シヤン・クマル・タバさん ネパールで出会った日本人ボランティアに憧れ、遠距離の東日本大学に留学。東日本大震災復興支援活動では国籍を問わない外国人ボランティアを出し、現地で連日支援を行う。2015年のネパール大地震後は、震災を経験した同国の子どもたちの交流を目的として「プロジェクト」を立ち上げ、その手が成長する手助けをしている。

・参考資料：

山中勉編『みあげれば がれきの上に こいのぼり (地球人の交換日記 1)』, 遊行社, 2012

和合亮一著、『詩の礫』, 徳間書店, 2011

まげねっちゃプロジェクト編、『まげねっちゃ つなみの被災地宮城県女川町の子どもたちが見つめたふるさとの1年』, 青志社, 2012

小野 智美編、『女川一中生の句 あの日から』, はとり文庫, 2012